

四半期報告書

(第73期第2四半期)

ニチレキ株式会社

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
第2 【事業の状況】	4
1 【事業等のリスク】	4
2 【経営上の重要な契約等】	4
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	4
第3 【提出会社の状況】	6
1 【株式等の状況】	6
2 【役員の状況】	8
第4 【経理の状況】	9
1 【四半期連結財務諸表】	10
2 【その他】	19
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	20

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年11月10日

【四半期会計期間】 第73期第2四半期(自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日)

【会社名】 ニチレキ株式会社

【英訳名】 NICHIREKI CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 小幡 学

【本店の所在の場所】 東京都千代田区九段北四丁目3番29号

【電話番号】 03-3265-1511

【事務連絡者氏名】 管理本部経理部長 後藤 武士

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区九段北四丁目3番29号

【電話番号】 03-3265-1511

【事務連絡者氏名】 管理本部経理部経理課課長代理 益子 剛

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第72期 第2四半期 連結累計期間	第73期 第2四半期 連結累計期間	第72期
会計期間	自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日	自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日
売上高 (百万円)	18,416	19,485	48,713
経常利益 (百万円)	269	917	4,474
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失(△) (百万円)	△70	561	2,671
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	△139	485	1,919
純資産額 (百万円)	41,310	42,888	42,977
総資産額 (百万円)	53,673	55,509	59,144
1株当たり四半期(当期) 純利益金額又は 四半期純損失(△) (円)	△2.41	19.58	92.34
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	77.0	77.3	72.7
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,192	3,034	5,447
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△1,372	△1,486	△2,790
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△607	△590	△1,020
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	16,497	17,802	16,887

回次	第72期 第2四半期 連結会計期間	第73期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日	自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	13.63	28.74

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 第73期第2四半期連結累計期間及び第72期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第72期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社および当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、企業収益の底堅さや雇用情勢の改善が続くなど、緩やかな回復基調で推移しました。しかし一方で円高の進行と、新興国経済の減速や英国のEU離脱問題等による世界経済の下振れリスク等により、景気の先行きは依然として不透明な状況にありました。

当社グループを取り巻く環境につきましては、平成28年度当初予算における公共事業関係費について一般会計で前年度当初予算比横這いの中、受注競争の激化、原材料価格の変動など引き続き厳しい状況となりました。

当社グループは、このような環境の中で、中期経営計画『Next 2020』の初年度として、「環境変化への適応力をさらに高め、強固な企業体制・経営基盤の構築を図っていく」ことを基本方針とし、「顧客の拡大と深耕」に取り組んでまいりました。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高19,485百万円（前年同四半期比5.8%増）となりました。また、営業利益873百万円（前年同四半期比332.6%増）、経常利益917百万円（前年同四半期比240.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益561百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失70百万円）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(アスファルト応用加工製品事業)

アスファルト応用加工製品事業につきましては、自社製品および工法の設計・受注活動を推進するとともに、原材料価格変動への対応や業務の効率化に努めました。当第2四半期連結累計期間の売上高は6,295百万円（前年同四半期比10.8%減）、セグメント利益1,551百万円（前年同四半期比31.4%増）となりました。

(道路舗装事業)

道路舗装事業につきましては、自社工法の設計活動や発注物件への工法提案や原価管理の強化を図りました。当第2四半期連結累計期間の売上高は13,050百万円（前年同四半期比16.3%増）、セグメント利益320百万円（前年同四半期はセグメント損失253百万円）となりました。

(その他)

その他につきましては、不動産賃貸収入などにより、売上高は140百万円（前年同四半期比0.5%減）、セグメント利益106百万円（前年同四半期比0.8%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

総資産は、前連結会計年度末に比べて3,635百万円減少し、55,509百万円となりました。これは、受取手形及び売掛金が4,904百万円、電子記録債権が624百万円、建設仮勘定が788百万円減少、現金及び預金が931百万円、建物及び構築物が1,279百万円増加したことなどによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べて3,547百万円減少し、12,620百万円となりました。これは、買掛金が1,469百万円、未払金が646百万円、未払法人税等が1,102百万円減少したことなどによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べて88百万円減少し、42,888百万円となりました。これは、利益剰余金が12百万円、その他有価証券評価差額金が77百万円減少したことなどによるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

区分	前第2四半期連結 累計期間 (百万円)	当第2四半期連結 累計期間 (百万円)	増減額 (百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,192	3,034	△158
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,372	△1,486	△114
財務活動によるキャッシュ・フロー	△607	△590	16
現金及び現金同等物の増減額	1,203	915	△287

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前年同四半期連結累計期間末に比べて、1,305百万円増加し、17,802百万円となりました。当四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により増加した資金は3,034百万円（前年同四半期比5.0%減）となりました。これは売上債権の減少5,611百万円などによる収入と、仕入債務の減少1,978百万円などによる支出によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により支出した資金は1,486百万円（前年同四半期比8.3%増）となりました。これは、有形固定資産の取得による支出1,565百万円などによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により支出した資金は590百万円（前年同四半期比2.6%減）となりました。これは、配当金の支払による支出571百万円などによるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループが支出した研究開発費の総額は355百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	90,000,000
計	90,000,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年11月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	31,685,955	31,685,955	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株で あります。
計	31,685,955	31,685,955	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年9月30日	—	31,685	—	2,919	—	2,017

(6) 【大株主の状況】

平成28年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	1,725	5.44
ニチレキ取引先持株会	東京都千代田区九段北四丁目3番29号	1,473	4.65
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	1,108	3.50
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	1,100	3.47
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	932	2.94
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO(常任代理人 シティバンク銀行株式会社)	388 GREENWICH STREET, NY, NY10013, USA (東京都新宿区6丁目27番30号)	676	2.14
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号	670	2.12
公益財団法人池田20世紀美術館	静岡県伊東市十足614	630	1.99
ニチレキ従業員持株会	東京都千代田区九段北四丁目3番29号	545	1.72
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	529	1.67
計	—	9,391	29.64

(注) 1 上記のほか当社所有の自己株式3,013千株(9.51%)があります。

2 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 1,725千株

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 932千株

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,013,500	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 28,654,100	286,541	—
単元未満株式	普通株式 18,355	—	—
発行済株式総数	31,685,955	—	—
総株主の議決権	—	286,541	—

(注) 単元未満株式の欄には、当社所有の自己株式が63株含まれております。

② 【自己株式等】

平成28年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
(自己保有株式) ニチレキ株	東京都千代田区九段 北四丁目3番29号	3,013,500	—	3,013,500	9.51
計	—	3,013,500	—	3,013,500	9.51

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成28年7月1日から平成28年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人日本橋事務所による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,500	18,431
受取手形及び売掛金	16,426	11,522
電子記録債権	1,639	1,015
有価証券	15	—
商品及び製品	726	819
未成工事支出金	160	584
原材料及び貯蔵品	615	637
未収還付法人税等	—	118
繰延税金資産	436	335
その他	175	307
貸倒引当金	△41	△12
流動資産合計	37,654	33,760
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,416	5,695
機械装置及び運搬具（純額）	3,201	3,112
土地	4,350	4,357
リース資産（純額）	281	265
建設仮勘定	856	68
その他（純額）	474	639
有形固定資産合計	13,581	14,137
無形固定資産		
その他	409	377
無形固定資産合計	409	377
投資その他の資産		
投資有価証券	4,412	4,524
関係会社出資金	786	809
関係会社長期貸付金	582	582
繰延税金資産	488	517
長期預金	705	305
その他	607	580
貸倒引当金	△58	△61
投資損失引当金	△26	△26
投資その他の資産合計	7,498	7,233
固定資産合計	21,489	21,748
資産合計	59,144	55,509

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	5,987	4,518
短期借入金	700	700
未払金	2,596	1,950
未払法人税等	1,254	151
賞与引当金	760	755
その他の引当金	138	37
その他	925	814
流動負債合計	12,363	8,928
固定負債		
長期未払金	30	29
リース債務	265	247
長期預り金	48	48
繰延税金負債	417	395
環境対策引当金	0	0
退職給付に係る負債	2,935	2,864
資産除去債務	104	105
固定負債合計	3,803	3,691
負債合計	16,167	12,620
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,919	2,919
資本剰余金	2,017	2,017
利益剰余金	38,082	38,070
自己株式	△1,778	△1,778
株主資本合計	41,241	41,228
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,770	1,692
退職給付に係る調整累計額	△34	△32
その他の包括利益累計額合計	1,736	1,660
純資産合計	42,977	42,888
負債純資産合計	59,144	55,509

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
売上高	※1 18,416	※1 19,485
売上原価	14,957	14,984
売上総利益	3,459	4,500
販売費及び一般管理費	※2 3,257	※2 3,627
営業利益	201	873
営業外収益		
受取利息	8	16
受取配当金	62	66
その他	11	9
営業外収益合計	82	92
営業外費用		
為替差損	9	42
その他	4	5
営業外費用合計	14	48
経常利益	269	917
特別利益		
固定資産売却益	12	12
受取補償金	—	10
特別利益合計	12	22
特別損失		
固定資産除却損	24	14
退職特別加算金	20	4
災害による損失	—	18
その他	—	0
特別損失合計	44	36
税金等調整前四半期純利益	237	903
法人税、住民税及び事業税	278	257
法人税等調整額	28	85
法人税等合計	307	342
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△70	561
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△70	561

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△70	561
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△45	△77
退職給付に係る調整額	△24	2
その他の包括利益合計	△69	△75
四半期包括利益	△139	485
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△139	485

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	237	903
減価償却費	1,045	987
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△42	△25
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△58	△4
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△168	△68
その他の引当金の増減額 (△は減少)	△98	△101
受取利息及び受取配当金	△70	△83
支払利息	3	2
為替差損益 (△は益)	9	40
固定資産売却損益 (△は益)	△12	△12
固定資産除却損	24	14
売上債権の増減額 (△は増加)	8,679	5,611
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△109	△539
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△138	△115
その他の固定資産の増減額 (△は増加)	4	△0
仕入債務の増減額 (△は減少)	△3,485	△1,978
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△95	△68
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	△1	△1
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△505	△136
その他	13	16
小計	5,229	4,441
利息及び配当金の受取額	70	83
利息の支払額	△3	△2
法人税等の支払額	△2,104	△1,475
その他	—	△12
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,192	3,034
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△406	△6
定期預金の払戻による収入	306	406
有形固定資産の取得による支出	△1,130	△1,565
有形固定資産の売却による収入	2	13
有形固定資産の除却による支出	△7	△2
無形固定資産の取得による支出	△39	△100
投資有価証券の取得による支出	△100	△211
貸付金の回収による収入	3	2
関係会社出資金の取得による支出	—	△23
その他	0	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,372	△1,486

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	800	800
短期借入金の返済による支出	△800	△800
リース債務の返済による支出	△24	△19
自己株式の取得による支出	△3	△0
配当金の支払額	△579	△571
財務活動によるキャッシュ・フロー	△607	△590
現金及び現金同等物に係る換算差額	△9	△40
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,203	915
現金及び現金同等物の期首残高	15,293	16,887
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 16,497	※ 17,802

【注記事項】

(会計方針の変更等)

当第2四半期連結累計期間
(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

(会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響額は軽微であります。

(四半期連結損益計算書関係)

※1 売上高の季節的変動

前第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

当社グループの売上高は、通常の営業の形態として、第3四半期連結会計期間から第4四半期連結会計期間において完成する工事の割合が大きいため、第1四半期連結会計期間から第2四半期連結会計期間における売上高に比べ、第3四半期連結会計期間から第4四半期連結会計期間における売上高が著しく多くなるといった季節的変動があります。

※2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
従業員給料手当等	1,053百万円	1,074百万円
賞与引当金繰入額	392百万円	419百万円
退職給付費用	121百万円	169百万円
貸倒引当金繰入額	△38百万円	△23百万円
減価償却費	171百万円	238百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
現金及び預金勘定	16,693百万円	18,431百万円
取得日から3ヶ月以内に満期日又は償還日の到来する短期投資(有価証券)	15百万円	—百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△211百万円	△629百万円
現金及び現金同等物	16,497百万円	17,802百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	581	20	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	573	20	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間（自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	アスファルト 応用加工製品 事業	道路舗装 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	7,057	11,218	18,275	141	18,416	—	18,416
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,926	—	2,926	27	2,953	△2,953	—
計	9,983	11,218	21,201	168	21,370	△2,953	18,416
セグメント利益又は 損失(△)	1,180	△253	927	105	1,033	△831	201

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸業、損害保険代理事業等であります。

2 セグメント利益の調整額△831百万円にはセグメント間取引消去△38百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△792百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない当社本社の総務部門等管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

当第2四半期連結累計期間（自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	アスファルト 応用加工製品 事業	道路舗装 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	6,295	13,050	19,345	140	19,485	—	19,485
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,349	—	3,349	26	3,376	△3,376	—
計	9,644	13,050	22,694	167	22,861	△3,376	19,485
セグメント利益	1,551	320	1,872	106	1,978	△1,104	873

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸業、損害保険代理事業等であります。

2 セグメント利益の調整額△1,104百万円にはセグメント間取引消去△72百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,032百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない当社本社の総務部門等管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更したため、事業セグメントの減価償却の方法を同様に変更しております。

当該変更により、当第2四半期連結累計期間の各セグメントに与える影響額は軽微であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額(△)	△2.41円	19.58円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は 親会社株主に帰属する四半期純損失金額(△) (百万円)	△70	561
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額又は普通株式に係る 親会社株主に帰属する四半期純損失金額(△) (百万円)	△70	561
普通株式の期中平均株式数(千株)	29,075	28,672

(注) 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年11月8日

ニチレキ株式会社
取締役会 御中

監査法人日本橋事務所

指定社員
業務執行社員 公認会計士 小 倉 明 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 千 葉 茂 寛 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているニチレキ株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成28年7月1日から平成28年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ニチレキ株式会社及び連結子会社の平成28年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は四半期連結財務諸表に添付される形で当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の8第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年11月10日

【会社名】 ニチレキ株式会社

【英訳名】 NICHIREKI CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 小 幡 学

【最高財務責任者の役職氏名】 該当事項はありません。

【本店の所在の場所】 東京都千代田区九段北四丁目3番29号

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 小幡 学は、当社の第73期第2四半期（自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。

